ミニ企画展 ― 新資料 当館初公開 ―

南画家・奥原晴湖展

〜ごあいさつ〜

奥原晴湖は、天保八年（一八三七）、古河藩（茨城県古河市）の武士、池田繁右衛門政明の四女として生まれました。絵画は、谷文晁門下で縁戚である枚田水石に師事しました。古河藩は女子の出国に厳しかったため、父政明の妹の嫁ぎ先である関宿藩士、奥原源左衛門の養女となり江戸に出て、上野摩利支天横町に住み、号を晴湖としました。その後、転居した同町内に墨吐煙雲楼を構えて画業に励みます。

晴湖の生きた時代は、芸術としての南画の評価が大きく変わっていきました。幕末から明治初頭は、南画は知識人の教養の一つとして大いに流行しました。しかし、明治一五年（一八八二）頃はフェノロサ「日本美術論」により、南画排斥の動きがあり低迷しますが、明治末から大正には再評価されるなど世評は時代とともに変化しました。このような時代背景がありましたが、作品への情熱は高く、画風を変化させつつ画力は円熟し、生涯に五千点ともいわれる作品と多くの傑作を残しています。

晴湖は、明治二四年（一八九一）に古河藩領のあった熊谷市上川上に画堂を建て隠棲します。しかし、作品は制作し続けており、特に傑作が多く生み出されましたが、大正二年（一九一三）に七七歳で没しました。

今回の展示では、当館所蔵の奥原晴湖の作品のうち、弟子である瀧脇晴華が受け継ぎ、そのご家族より晴湖と縁のある熊谷市のために御寄贈いただいた新資料を主体として、また当館としては初めて公開いたします。南画独特の詩書画一致による世界観や、作品毎の構図や絵画表現、そして郷土ゆかりの画家である奥原晴湖について知っていただければ幸いです。

五言律詩　明治四一年（1908）晴湖が晴華へ贈った扇

会期：令和二年九月八日（火）〜十二月六日（日）

［休館日：毎週月曜日（祝日は除く）、9/23、10/2、11/4、11/6、11/24、12/4］

会場：熊谷市立熊谷図書館 三階 郷土資料展示室

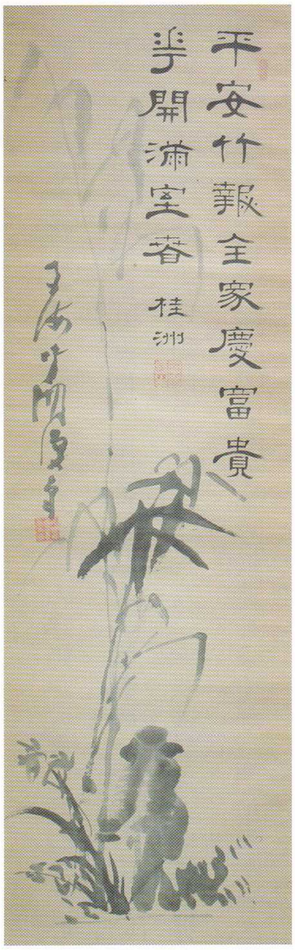
時間：午前九時〜午後五時

主催：熊谷市立熊谷図書館

住所：熊谷市桜木町二丁目33番地2
電話：〇四八－五二五－九四六三

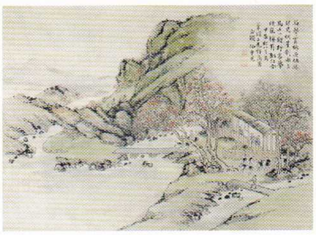
萬松冨岳図 明治 30 年

千岳両壑図



竹の図

書斎図 明治 8 年



秋山行旅図 明治 37 年

漁夫図 明治 27 年

席　画

流水新樹図 明治21年

このチラシは、1,500 枚制作し、制作費用は 1 枚あたり 13.2 円です。